

博物館ノート

新生代植物化石

鈴木敬治コレクション

一九八九年、福島大学地学教室から当館に、新生代の化石を中心に約二万点の植物化石が寄託されました。

これらの大部分は、鈴木敬治先生ご自身の



Buxus microphylla Sieb. & Zucc. var. *japonica* (Muell. Arg.)
Rehd. & Wils. 木犀科

ツゲの一種
Buxus microphylla var. *japonica*
七折坂層上部 会津坂下町泉

収集と、福島大学地学教室の卒業生等によって収集された貴重な化石です。鈴木先生は、福島大学ご退官後の現在も、当館で精力的に整理作業を行っています。

福島県の新生代植物化石は、鈴木先生等によって詳細に調べられ、多くの論文が出ています。特に会津盆地の第三紀〜第四紀の植物化石の変遷の研究は、他に例を見ない特筆すべきものでしょう。

福島県の新生代の植物化石産地の多くは、日本列島の大部分が海でおおわれ、多島海であった一六〇〇万年前の前後の時代と、一〇〇〇万年前以降の時代のもです。大地の隆起・海退に伴い、福島県の内陸部はあちこち



Quercus cf. *miocrispula* 天王寺層
ムカシミズナラ (ブナ科)
Quercus cf. *miocrispula*
天王寺層 福島市飯坂町



721118-01 *Betula onbarensis* Tanai & N. Suzuki
オンバラカンバ (カバノキ科)
Betula onbarensis
黒森層上部 会津若松市黒森林道

に湖や沼沢地のような環境が出来上がり、そこに植物遺体が流入したのです。

植物は当時の時代の環境を忠実にあらわしています。植物化石による古植生の変遷は、新生代第四紀の氷河期、間氷期の環境をはじめ、地域よっての植生の変化もとらえることができます。植物化石研究を含めた科学の結集が、古環境の復元に役だっているのです。

